

# 春の特別ラン展の開催について

濱谷修一・島田有紀子・堀川大輔  
・磯部実

令和2(2020)年2月22日から3月1日にかけて、「春の特別ラン展」を開催したので、その概要について報告する。

本事業は、前年開催された「世界の蘭と熱帯の花フェスタ」(濱谷ほか2020)の後継イベントとして、園内の大温室を主たる会場として開催された。

## イベント名、展示概要、サブタイトルの決定

本イベント名称について、前年度は「世界の蘭と熱帯の花フェスタ」であったが、ランがメインの展示であることを来園者に伝えにくかった事、「熱帯の花」について納得のいく展示が難しかった事などの反省から名称の見直しを行い、(わかりやすいもの)ということで「春の特別ラン展」となった。また、名称の変更と同時進行で展示内容の検討を行い、10月までに概要をほぼ決定した。

これらの内容に基づき、サブタイトル、チラシのデザインについて、管理課企画広報係の主導により、職員にアイデアを募集した。サブタイトルは～令和桜に、浪漫的蘭～となった。サブタイトルの「令和桜」は、大温室入ってすぐのところに設置した、ピンクのデンドロビウムで桜を表現した飾りの名称である。出来上がったチラシは図1-1、1-2のとおりである。

## 装飾について

装飾には、五属のラン(シンビディウム、デンドロビウム、ファレノプシス、カトレヤ、オンシディウム)を主に用いた。ランの主要な五属については諸説あるが、本園の判断で、広く流通し入手しやすいものとして上記を選んだ。「五つ」選んだのは、同年に開催が予定されていた東京五輪を少なからず意識したことによる。

### ① 温室入口のエリア

大温室入口ロビーでは、解説パネルと実物により、ランの主要な五属を紹介した。また、華やかさをより高めるために、ケイフラワースタジオの講師の方

に、ランの切花を使った盛花を制作・展示していただいた。

ロビーを通過した後の大温室内のレイアウトは図2のとおりである。

### ② 令和桜と菜の花畑

ピンクのデンドロビウム・ファンシーエンジェル‘リゼ’とマイスウィート‘ウインク’の計約1000鉢を枯れ木に取り付け、2株の桜のイメージを作った。令和桜の下には約150鉢の黄色のオンシディウム・オブリザツムで菜の花畑のイメージを作り、その中に約100鉢のファレノプシスでせせらぎのイメージ、約20鉢のカトレヤで川面に移る桜のイメージを作った(図3)。

アイデアとしては本園にとって定番のネタであったが、インパクトがあり、わかりやすいものだったためか、非常に好評だった。

### ③ 五属のランの展示

空中デッキの手前になるところに「ランのトンネル」を作り、トンネル内側にファレノプシス、デンファレ、オンシディウム等の切り花を飾った(図4)。

トンネルをくぐったところにある滝の周辺に「五属のラン」のコーナーを作った。約100鉢のファレノプシス、約50鉢のシンビディウム、約150鉢のデンドロビウム、約200鉢のオンシディウム、約50鉢のカトレヤを、岩組みと組み合わせ、自然風かつ色鮮やかに装飾した(図5-1、5-2)。

### ④ 愛好団体等による展示

広島県、山口県のランの愛好団体(6団体:47名、297点)、生産者(広島県花卉園芸農業協同組合洋ラン部会:約120点)による展示・装飾のコーナーを設けた。

愛好団体から出品されたランを対象に審査会(洋ラン品評会)を行い、グランプリ1点、準グランプリ2点を含む13作品を表彰した。受賞作品のうち上位3作品は、熱帯スイレン温室との連絡口付近の広いところに別途棚を設けて展示した(図6)。その他の受賞作品は、それぞれの団体の棚で、受賞を示す札を添えて展示した。なお、上位3作品を飾った場所は日当たりが良く葉焼けが起きてしまった。急ぎよ寒冷紗を上設置して対応したが、次回は場所の移動を検討したい。

### ⑤ 通路など

大温室の下の段から上の段の間を結ぶ空中デッキ(スロープ)上で、「世にも奇妙なラン」と題し、珍

しいラン、変わった形のラン、面白いエピソードを持つランなどの展示を行った。これについては別稿で詳述する。

## ⑥ 記念撮影コーナー

大温室上段のフラワーコーナーでは、記念撮影を行うスペースを設けた。一つは切り花をあしらったハート形のフレームと華やかなランの鉢物に囲まれて撮影をするコーナー（図7）、もう一つは広島東洋カープから寄贈された西川選手の等身大パネルと記念撮影をするコーナー（図8）とした。

## ⑦ フクシア温室

フクシア温室奥の野生ランコーナーでは、園保有の野生ランを展示した。

## ⑧ 展示温室

展示温室では愛好家団体によるランの販売会を行った。

また、「展示温室が主会場の大温室から奥まった場所で、しかも階段をのぼっていかないといけないためか、来園者がなかなか来てくれない」ことが以前から課題となっていたため、改善を目的として下記の行事を展示温室で行った。

1) 洋ランクリニック：愛好家団体会員によるラン栽培に関する質問や相談の受付。

2) 洋ラン実演会：前年度は、期間中に1日、職員が行ったが、当年度は広島洋蘭クラブの協力により、会期中に4日、会員を講師として計画した（前半2回は実施、後半2回は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止）（図9）。

3) スタンプラリーの景品引換所：入園時に配られた台紙を持って会場内（大温室、フクシア温室）をめぐり、6か所でスタンプを押す。参加賞を展示温室で渡す。

これらの企画、特に、スタンプラリーの景品引換所を持ってきたのは、来園者を展示温室まで誘導する点において効果的だった。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大に伴い期間中の2月29日（土）から開催行事を自粛したため、実演会、スタンプラリーが中止となり、ランの販売は規模を縮小せざるを得なくなった。

## ⑨ 関連行事

期間中の2月22日（土）、23日（日）には、植物友の会会員によるコサージュ作り教室を行った。一方、2月29日（土）、3月1日に予定していたカレイドボタニカルフレーム作り教室は前述のように新型

コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となった。

また、展示資料館ロビーにおいて、「ランのアート展示」と称し、小規模ではあるがランを題材としたボタニカルアートの展示を行った（図10）。

## 所感

前年度、4年ぶりに開催したことで分かった反省点に基づき、企画スケジュールの前倒し、マスコミ回りなどの広報、展示内容の魅力アップ、明確な目的を持った関連行事の設定など、改善の努力を行い、取り組んだ職員としては手ごたえのある仕上がりがなったが、入園者数増という目に見える効果は確認できなかった（表）。今回は、会期が新型コロナウイルスの感染拡大の初期にあたり、外出を控えるムードが出始めた頃の開催だったので、その影響があるとは思うが、残念である。

このような状況下にもかかわらず、展示協力してくださった方々や、イベントを楽しみにして来園してくださった方々には感謝するとともに、より幅広い層に興味を持ってもらえるような取り組みをすることの必要性を痛感している。

## 参考及び引用文献

濱谷修一・島田有紀子・堀川大輔・磯部実 2020. 世界の蘭と熱帯の花フェスタの開催について. 広島市植物公園栽培記録第41号：9-13.



図1-1 ちらし表



図1-2 ちらし裏

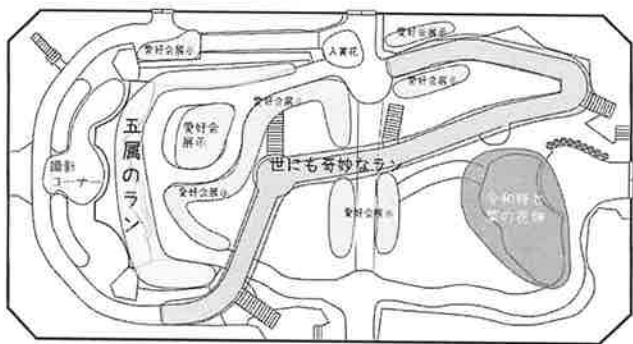


図2 大温室内レイアウト

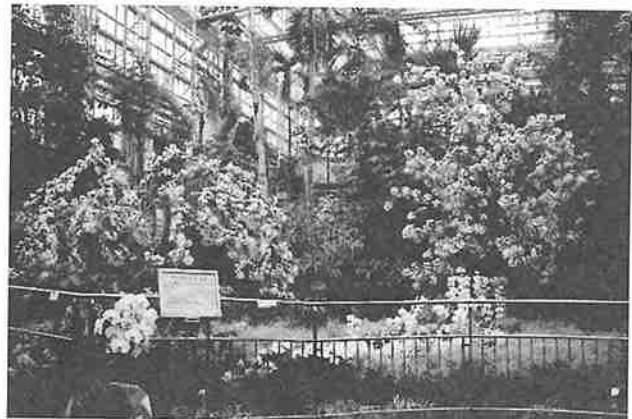


図3 令和桜と菜の花畑

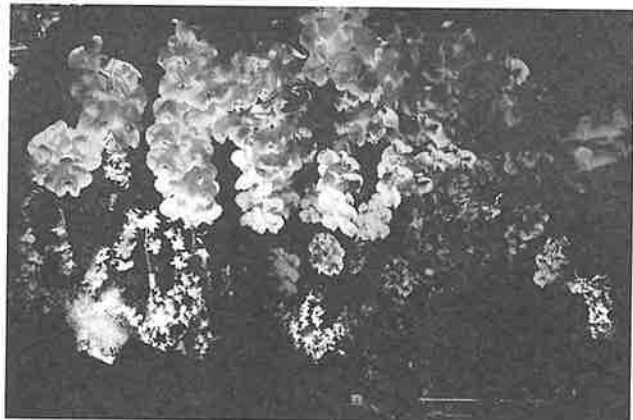


図4 ランのトンネル



図5-1 五属のラン(左)



図5-2 五属のラン(右)



図6 洋ラン品評会上位3作品の展示



図7 ハートに囲まれて記念撮影



図8 カープの西川選手と記念撮影

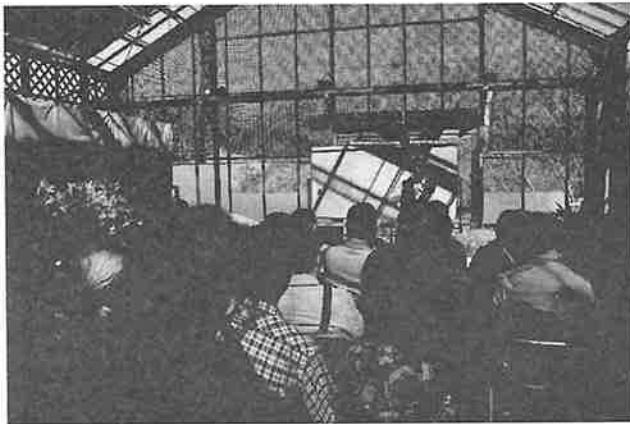


図9 洋ラン実演会



図10 ランのアート展示

表 期間中入園者数について、過去の同等イベントとの比較

	令和2年		平成31年		平成27年		平成26年					
	天候	入園者数	天候	入園者数	天候	入園者数	天候	入園者数				
土	2月22日	雨後晴	360人	2月23日	晴	758人	2月28日	晴	1623人	3月1日	曇	1076人
日	2月23日	晴	1428人	2月24日	晴	1629人	3月1日	雨	717人	3月2日	晴後曇	2611人
月	2月24日(祝)	晴	1343人	2月25日	晴	311人	3月2日	晴	742人	3月3日	晴	1300人
火	2月25日	曇	315人	2月26日	晴	512人	3月3日	曇後雨	279人	3月4日	曇	1197人
水	2月26日	晴	642人	2月27日	曇後雨	234人	3月4日	晴	778人	3月5日	曇時々晴	640人
木	2月27日	晴	415人	2月28日	曇	302人	3月5日	晴	544人	3月6日	曇時々雪	864人
金	2月28日	晴後曇	265人	3月1日	休園日	0人	3月6日	晴	405人	3月7日	晴時々雪	721人
土	2月29日	雨	162人	3月2日	晴後曇	1147人	3月7日	曇後雨	954人	3月8日	晴	1902人
日	3月1日	晴	683人	3月3日	雨	525人	3月8日	晴	3471人	3月9日	晴	2462人
		計	5613人		計	5418人		計	9513人		計	14211人